

**【イギリスのジョンソン首相の勝利の本当の意味と
「米英の諜報機関をめぐる本当の裏側の近代史」とは？】**

⇒編集後記で

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

**【FX新・無料案件！】20億円の“怪物”が暴露！
完全無裁量で1ヶ月915万円稼ぐ手法とは？**

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

【FX新案件】（無料）

**「完全無裁量なのに、
1ヶ月で915万円。」**

**伝説の機関投資家が明かす
「相場の絶対領域」。**

**あらゆる価格が
“そこ”に引き寄せられる、**

**奇跡のゾーンの存在を
あなたをご存知ですか？**

150pips、200pipsを
一撃で奪ってしまうことも
十分に可能でしょう。」

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

【2日間の期間限定公開です！】

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

どうもゆうです！

さて、先日山之内さんの案件が終了しましたが

購入された方はインフォカートの購入者画面で

私ゆうの購入者登録ができますので

一応特典の配布は事務局経由と私経由で漏らさないように

する予定なのですが

購入された方はインフォカードの購入者画面で

購入者登録だけ特典を受け取るためにしておいてくださいね～

さてさて、それで今週世界中で大変注目された

イギリスの総選挙でしたが

ジョンソンの保守党圧勝となりましたね～

それで以前にこちらは

保守党圧勝シナリオになった場合について

扱ってましたが

山之内さんのポンドの授業のあたりで

こちらの内容を書いて12月2日には
お渡ししてると思います。

PDFレポート

【12月、世界が注目するボリス・ジョンソン英首相について考える！】

⇒ <http://fxgod.net/pdf/boris.pdf>

それで基本的に予測とか予想は意味がないので

私はそれらはしないので両方のシナリオをいつも見るのですが

とりあえず上のPDFに引用してる

ユーガブの調査が

ボリスジョンソン圧勝ってことで扱ってますが

実際そうなってユーガブはかなりの的確だな〜と

いう感じでしたよね。

それで実はここで重要なのがPDFにおける

ボリスジョンソンの保守党が圧勝シナリオですから

そこで

「もうトランプの再選はほぼほぼ確定してきた」

ってのもありますよね。

これから相当面白くなりそうです。

一応その辺を振り返って、そして

「世界の本当の裏側の近代史」についても

今日は扱いたいと思います。

編集後記で！



**【FX】 20 億円の“怪物”が暴露！
完全無裁量で 1 ヶ月 915 万円稼ぐ手法**



さてさて、ここ最近山之内さんの案件をかなり
扱ってしまして昨日終わったのですが

この12月も他社さんで
なかなか注目の無料の案件が出ているようです。

今回の新案件ですがずばり

「20 億円」を動かしてる機関投資家さん



ということですが

サポートで定評のあるクロスリテイリングさんが

相当自信を持つてる新しい

無料の案件ということですね～

「完全無裁量で
月収 915 万円の
爆益すらも狙える」

ということでこちらもすごそうですね～

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

それで以下クロスリテイリングさんから

あなたにメッセージです！

=====

**【FX】 20 億円の“怪物”が暴露！
完全無裁量で 1 ヶ月 915 万円稼ぐ手法**

運用資金、20 億円。

取引数量、1600 ロット・・・！

まさに規格外、世界を股にかける
バケモノ級の元機関投資家が、

**FX 初心者でも完全無裁量で
月収 915 万円稼ぐ方法を緊急暴露！？**

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

※10 分限定！今すぐご覧ください

「いろいろな手法を使ってみたけど
思うように FX で稼げない」

「FX は簡単に稼げると聞いたのに、
難しくてあきらめてしまった」

「個人投資家は大口トレーダーの
餌にされているだけだから・・・」

トレーダーなら誰しも、
一度はこのような悩みを
抱えたことがありますよね。

そこで今回ご紹介するのは、
そんなあなたの悩みを解消するばかりか、

裁量ゼロで毎月 915 万円すら目指せる、
オンラインの FX 無料講座です！

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

この無料講座は、
異次元の月利 10,000%を叩き出した、

元機関投資家に独占取材をおこなった
ドキュメンタリー映像です。

ちなみに機関投資家とは
個人トレーダーとは違い、

企業や法人から預けられた
莫大な資金を運用する、
FX トレードのプロ中のプロ。

しかもその元機関投資家は、
普通のディーラーでもまずあり得ない、

20億円という巨額の資金を
なんとたった一人で運用し、

為替相場を裏から自在に操っていた、
“投資界の怪物”とも言われる人物。

その信じられないような実績に
恐れをなした他の機関投資家たちが、

集団で結託して彼を廃業へと
追いやってしまうほど。

そんなアウトローの元機関投資家が、
月利 10,000%を上げた
極秘の手法を、

この無料講座では全て独占公開します。

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

※あと 10 分で公開終了します

そのトレード手法の最大の特長は、

あらゆる価格が引き寄せられる

「相場の絶対領域」

世界でも彼一人だけしか知らない

この「絶対領域」から

我が物顔で利益を上げながら、

FX 初心者でも完全無裁量で

稼ぐことも狙えてしまうという、

まさにFXの常識を覆すような

禁断の方法となっています。

実際の結果でも、

たった1ヶ月で915万円という

驚愕の実績を叩き出しました。

裁量判断がゼロでこの結果なら、

本当に誰がやっても、

同じような稼ぎ方は再現できる、

と言っても過言ではないでしょう。

昔から多くの個人投資家たちを

食い物にしてきた機関投資家、

そして、その機関投資家の中でも、

トップに君臨していた

“怪物”トレーダーの手法を学べる。

**もちろんその先にあるのは、
あなたが相場を征服し、支配できる未来でしょう。**

**毎月 500 万円でも 1000 万円でも、
好きなだけ稼ぐ将来が
約束されたようなものですから、**

**これほどまでに願ったり、
叶ったりの FX 講座はないと思います。**

**そんな完全無料の
オンライン講座は、**

**この下のページから
無料で申込みをした方のみに、
限定で公開されます。**

**あとたった 10 分で
無料申込みは終了してしまうので、**

**あなたのトレードが劇的に変わる、
究極のチャンスをお見逃しなく。**

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

※残り 10 分！カウントダウン発生中

=====

以上です！

それでここ最近はもうすごい本物、みたいな人が

出てこなくなってきましたが

この前この案件について色々クロスさんが

教えてくれたんですが

この人本物の「怪物」なんだそうです。

今回のプロジェクトは、

たった 1 人で 20 億円の資金を

1600 ロットで運用していた、

とある、伝説の機関投資家による

世界規模のプロジェクトということですね～

それでこの「怪物」の彼ですが

普通の機関投資家が1年間チームで運用して

やっと積み上げていくほどの利益を、

彼はたった1人で、しかもたった1ヶ月で軽々と稼ぐ、

段違いの実力を持っていることから、

他の機関投資家を差し置いて、

彼だけに依頼が殺到してしまったそうです。

ただ、これ多くの業界であることですがこうやって

人気が出て依頼なんかが殺到する人とかは

日本の「引きつり下ろす嫉妬文化」ってのがありまして

それは実は機関投資家の業界も変わらないんだけど

そこで

その状況を面白く思わなかった

他の成績があまり振るわなかった機関投資家たちが、

この怪物の彼が日本で活動できないように、

権力で押さえつけたのですと。

まあどこの業界でもやってることは一緒ですよ。

それで

そんな日本の嫉妬心で引き釣りあう

状況に窮屈さを感じた彼は、

「投資で世界を変える」という夢を叶えるため
世界へと飛び立ちました。

そして今回、サポートでも大変定評のある

クロスグループさんとの幾度の交渉の末、

彼の「投資の闇に葬られたFXの成功法」

を独占公開することが決定したのだそうです。

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

ということですね。

なぜ、こんな非現実的なことが
実現できているのかというと

それはあまりにもすごすぎて回りに引き釣り下ろされた

怪物の彼が、

「相場の世界では

~~~~~

決して触れてはいけない真実」

~~~~~

を知ってしまったからです。

その真実とは、

値動きがある相場はもちろん、値動きがない相場、
すべてのマーケットから利益を狙える、

「価格が引き寄せられる相場の絶対領域」

というもの。

なんだそうです。

相場に集約されている大きな力が

必ず引き寄せられると言ってもいいほどの領域。

= 絶対領域

があるということなんですね。

今回の無料案件はそれらを暴露していくそうです！

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

「絶対領域」と聞いてしまうと

私たち男性は

「スカート、ショートパンツなどのボトムスと

ニーソックスを着用した際にできる

ボトムスとソックスの間の

太ももの素肌が露出した部分を指す萌え用語」

をどうしても思い出してしまうものです。

右側に写真があります。

(WIKIPEDIA の絶対領域の写真)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%B5%B6%E5%AF%BE%E9%A0%98%E5%9F%9F>

しかし今回の彼の絶対領域というのは違うのですね。

彼が色々検証したところ

「「価格が引き寄せられる相場の絶対領域」

を見つけて

それを利用してトレードを組み立てたところ・・・

もはや「怪物」と呼ばれるまでになったわけです。

それこそ機関投資家の中でもトップレベルにまで

なってしまったと。

それで今回は年末ということもありまして

年末の無料公開ということで

それをクロスグループが色々と交渉を継続した結果

公開していただけるそうです。

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

それで最近のスゴイ時代になっておりますよね。

昔はこういう機関投資家がこうやってネットで顔出しはしないまでも

教えてくれるってことはなかったのですが

最近はこの前の山之内さんもですが

「本物中の本物」をなんとか各社が口説き落として

講師として立ってもらってるわけで

すごい案件がどんどん出てきております。

それで数多くの実力派トレーダーを見てきたのが

まさにクロスグループの総帥の FX-JIN こと山口さんですが

クロスさんいわく

「このプロジェクトは

たった1人で20億円の資金を1600ロットで運用するなど、

あまりにも高い実力から投資界の闇に葬られた

伝説の機関投資家が「相場の絶対領域」を

明かしていくプロジェクトです。

**その男のロジックは完全無裁量で
月収 915 万円を稼ぐなど、
FX-Jin が唯一認めたトレーダーでもあり、**

**「相場の絶対領域」を駆使することで、
FX-Jin ですら辿り着けない境地まで上り詰めました。**

**注目すべきは「相場の絶対領域」が
完全無裁量で使いこなすことができるということ。**

**つまり FX 初心者でも彼の手法を使って
機械的に淡々とトレードするだけで**

**100 万円、300 万円、800 万円と
すぐに稼げるでしょう。**

まさに聖杯と呼ぶにふさわしい手法。

**FX を始めたばかりの FX 初心者の方、
なかなか結果がでない FX 中級者の方、
今の利益をさらに安定して伸ばしていきたい FX 上級者の方まで、**

**少しでも「FX で稼ぎたい」と思う方でしたら、
無料登録しておいて間違いありません」**

ということですね！

一応こちらの案件が12月16日のお昼で

修了する無料の案件なのですが

内容はかなりクロスリテイリングでもずば抜けて

自信があるということなので

是非あなたも気になるようでしたら

ご覧くださいね～

機関投資家業界でもすごすぎて

嫉妬にあって 国内で活動できないように潰された怪物・・・

そういう怪物がこれまたネット業界で

台頭してきたのでしょうか。

なんともすごい時代ですね～

一応今日と明日と明後日お昼までの

2日ちょっとでもう終わる案件と聞いていますので

期間限定ですので

あなたが気になるようでしたら

是非登録して 学んでみてくださいね～

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【FX 新案件】（無料）

「完全無裁量なのに、
1ヶ月で915万円。」

伝説の機関投資家が明かす
「相場の絶対領域」。

あらゆる価格が
“そこ”に引き寄せられる、

奇跡のゾーンの存在を
あなたはご存知ですか？

150pips、200pipsを
一撃で奪ってしまうことも
十分に可能でしょう。」

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

【2日間の期間限定公開です！】

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

=====**編集後記**=====

さてさて、この前ですが山之内さんの案件が

完全に終了しましたね。

私なんかはもう10年以上この業界のあらゆる

商品見てきたのですが

まあそんな中でも稀有なガチのすごい商品でしたから

是非入った方は

ちょっとこれだけは諦めないで

10ヶ月間山之内さんに学んでほしいな～なんて思います。

たぶんですが入って

山之内さんとコミュしながら学ばれる方は

4～5ヶ月で圧倒的に他の人と

差がつくだろうなと思います。

お金を稼ぐってのは結構難しく考える人がいるけど

極めてシンプルで

すごい人で理念とか哲学がしっかりした偉人を

自分なりに見つけて

そこで彼、彼女に師事して素直に学んで

実践する、

ほんとかれだけですよね。

さらっと書いてますがとても大事だと思います。

さて、それでこの前ポンドという通貨は何か？っていうところらへんで

ボリスジョンソン首相についてめっちゃ扱ってましたが

ジョンソン圧勝！！（笑）

個人的には予測とか予想とか意味ないんで

勝ちシナリオと負けシナリオ両方見てその後考えるっていう

思考方法をとるんですが

ただ心の中ではジョンソンがんばれ~でしたから

まああの結果は素晴らしい結果だったと私個人は思いました。

ジョンソンはコービンをマルキスト呼ばわりしていた

ってのも私が書いたらこれ結構マスコミでも

そのジョンソンの口の悪さ？が書かれだしたけど

マルキスト・労働党コービンは大敗となりました。

それで以前このイギリスの総選挙の部分は扱ったんだけど

「今回イギリス離脱選挙で保守党が勝ったってのは

どういふことか？」

ってのをマスコミは嫌がって書いてませんが

これは以前書いてますから

12月2日に書いた

【12月、世界が注目するボリス・ジョンソン英首相について考える！】

から引用です。



=====

それでまず何よりも12月・・・

注目されてるのが

イギリスの総選挙ですよね。

12月12日です。

1212・・・ですよね。

この数字・・・ はまあ一応あまり書きませんが

覚えやすい数字です。

それでこの12月12日イギリス総選挙にて

今出てる予測ってのが

EUからの離脱を目指すボリスジョンソン首相の

保守党が 圧倒的に勝って

そして安定多数を確保して、

そんでこの前ちょっと書きましたが労働党が

負けるなんてことですが

これは田中宇先生が引用されてましたけど

大手選挙予測機関のユーガブがそう選挙情勢の把握を

しているってことですね。

ユーガブの調査だと今言われてるのが

総数650が下院の議席だけど

ここで保守党が現状の317から359とかに増えて

そんで労働党が262から211議席に減るっていう

そういう調査でして

これがユーガブの調査です。

ちなみにイギリスのEU離脱選挙ってのは

まだ記憶に新しい2016年のあの選挙でしたが

あの時、どのメディアも「EU残留派が勝つ」と

やっていたんですが

当時ユーガブだけは「EU 離脱派が勝つ」という調査結果を

出していたんですね。

そういう意味でユーガブの調査は結構注目ですよ。

私は100%予測はできないとは思っていますが

ただ現状ユーガブがそういう調査を出してきてる

というのは注目です。

それでここで

1 ユーガブの言うとおりの保守党が勝つケース

と

2 労働党が巻き返すケース

の両方を考える必要はあるんですが

まず1 のケースですね。

ここで私なんかはリバータリアンの立場として

保守党のボリスジョンソン支持してる

人間なのですが

まあここで 保守党がちゃんと順当に勝ったら

これとんでもなく面白いと思ってます。

保守党の大勝ってのは 彼らはこの前ボリスジョンソン首相の

ツイッターもメルマガで引用したけど

どうみてもイギリスのEU離脱の動きに拍車をかけますよね？

もう「とにかくEU離脱したいんだ。2016年の選挙を

骨抜きにしようとしてるエスタブどもめ！」

つてのがジョンソン首相に入れてるイギリス人たちの

分かりやすい本音だろうと思います。

本当は EU 離脱選挙で イギリスは EU 離脱なんだから

早く離脱するのが民意だけど

議会在が占拠されて、それでそれができなくなったわけですが

それに怒ってる、反エスタブの

イギリス人は多いのですよ。

反エスタブっていうと分かりづらいかもですね、

反上級国民、です、分かりやすく言うと。

それでジョンソン首相は？っていうと

この人の思想は

「もう EU と協定なんか結ばないで離脱しても良いんだ！」

っていう人ですね。

合意なき離脱とか言いましたけど

本当は合意なんていらねーんだ、離脱しちまえ

って言う人で エスタブがそんなことされたら

自分たちの権威が崩壊するから恐れてるわけです。

簡単に言うところのことなんだけど

それを難しく説明して嘘認識に誘導するのが

世界の官僚たちやその上に支配されてる

マスコミたちですね。

それで ジョンソンってのはむしろ

合意なき離脱ってのは混乱を呼ぶとされてますが

彼の場合はむしろ 本音としては「合意なき

協定なき離脱のほうがよい」

と考えてるでしょうが

それは本質的には イギリスの EU 離脱ってのは

反エスタブ 反上級国民、ですが

その背後はやはり英諜報機関なんです。

M Iシックスとかの。

そこに攻撃するのがジョンソンの役割ですからね

だから協定なき離脱のほうがあの人は本当は

良いはずなんです、思想分析すると。

それでジョンソンは実際に公約通り

11月には無協定離脱を試みたんですが

党内から離反者が出てしましまして

そこで離脱を阻止したいっていう人間たちが

議会の多数派となってしまったんですね。

すなわちイギリス人の民意は、これ議会で骨抜きにされた

ですよ。

これが「議院内閣制」の本質なんでしょう。

一応民意を反映してるようにに議院内閣制では

装うんだけど

いざ、本当に民衆首相が現れて民衆の意向を

反映させようとしたら

議会在これ妨害できる仕組みなんですね。

それでイギリスなんかはこの議院内閣制ですが

(日本も)

そこで離脱を阻止する人間が多数になってしまったけど

そこで ボリスジョンソンが

「じゃあ議会を解散する」

と言い出して、

ここで総選挙になりました。

1212です。12月12日。

それでここで 保守党がジョンソンが勝った場合

それは「ジョンソンの無協定離脱が

イギリス国民の支持を得た！」

ということになります。

こうなったらポンドは・・・

一時的によくなっていますが

その後・・・どうなるんでしょう。

予測は不可能だけでも、負けないように対策が必要ですね。

それでもしここでジョンソンが大勝しますと

そこでボリスジョンソンが

「よーし、じゃあ無協定離脱でいいじゃないか！

EUのエスタブやイギリスの諜報が喜ぶ

合意された離脱とかくそくらえ」

となるわけです。

そうなると2020年の1月にですね、

~~~~~

ここで無協定離脱の可能性が「一気に」高まります。

---

---

(中略)

それでこのイギリスの総選挙の重要な点ってのは

「アメリカの大統領選挙」にも波及しますけども

これは思い出してほしいのですが

イギリスのEU離脱選挙で離脱派が2016年に勝って

その後トランプ大統領がアメリカ選挙で勝ちましたが

これは連動してるんですね。

イギリスで 反エスタブ、すなわち

反諜報機関の勢力が選挙で勝った流れがあったんですが

それがアメリカに波及したんです。

それが韓国なんかでもパククネが負けて

ムンジェインになったし、

あとはマレーシアでもナジブが負けて

マハティールになったし、

全部連動してます。

だから、12月のイギリス総選挙にて

~~~~~

ボリスジョンソンの保守党勝つと

~~~~~

自動的にこれアメリカのトランプ大統領の再選確率が

~~~~~

急上昇しますね。

~~~~~

トランプは大統領選まで

QE4のジャブジャブマネー使って

NY ダウ吊り上げをさらにしやすくなりそう。

だからトランプはこれイギリスのジョンソン応援してるんだけど

それはそのまま彼の再選につながるからです。

=====

以上です！！

それで今回ですがシナリオとしては

PDFに一番上に書いてるジョンソン圧勝シナリオなんですが

ここで現状は市場は合意なき離脱はまだ織り込んでいない

感じですよ。

よく市場は全てを織り込むと効率的市場仮説の話で言うけど

あれほんと今の時代には

まだ当てはらまないんだらうな~と思ひまして

やはりこれから1月なんですが何故か、

日本のマスコミは今は「合意なき離脱が回避されたという謎な見方」

をしていますが（ジョンソンの思想が読めないのか・・・）

やはりこれは私が12月2日に書いた

「そうすると2020年の1月にですね、

~~~~~

ここで無協定離脱の可能性が「一気に」高まります。

~~~~~

」

つてのは想定に入れておいたほうがよいんだらうと思ひますね。

このあたりで為替も一気に動く可能性があります。

ただこれは マスコミとかは脳みそお花畑な感じですが

ただ日本の海外企業なんかはもうジョンソンが勝って密かに

合意なき離脱に対して対応するぞとこの1日~2日

大きな動きに水面下ではなってきたようです。

選挙結果で労働党黙らせる

ジョンソンが「本性」をこの1ヶ月前後の間に見せてくる可能性が

大いにありますからね、

この辺は大変注目なんですね~



ジョンソンのある種の正体ってのはトランプと同じであって

反イギリス諜報ですからね、

だからイギリス諜報が最もダメージ食らう合意なき、協定もなんもない

離脱が一番本当は彼は本音でほしいわけですから

今はマスコミは 「合意なき離脱は回避されたようだ」という謎な

言い方してますが

そうではないと思いますから

圧勝して敵がいなくなったジョンソンが本性出してきたら

すごい動きになる可能性を秘めてますんで

この辺は年末年始や

来年1月の相場は

注意したほうが良いですよ。

あとは

「だから、12月のイギリス総選挙にて

ボリスジョンソンの保守党勝つと

自動的にこれアメリカのトランプ大統領の再選確率が

急上昇しますね。

」

ということで以前書いてますが

これでもう2020年のアメリカ大統領選挙で

トランプの再選確率が極めて圧倒的に上昇したってのが

事実ですよ。

これも日本のマスコミは書いてませんけども

これからよりアメリカではトランプが強くなっていく

というシナリオは見えてきます。

だからジョンソンが勝ったのですから

トランプが再選が暗殺などされない限りは

ほぼほぼトランプが再選される状態

になったと言えるでしょう。



アメリカとイギリスの諜報から見る裏の近代史

さて、それで私なんかは色々昔から大学で政治学学んで

その後もメルマガで

記事を書いているわけですが

ここで、やはり重要だな、と思うのが

「アメリカとイギリスの諜報から見る裏の近代史」

なんですね。

ちなみにネットには色々な史観が溢れておりまして

まあとにかく色々な政治史観でああでもない、こうでもない

で人々が言い合ってる状況です。

が・・・私のメルマガだと数年前から

トランプという候補が勝って大統領になり

北朝鮮と韓国が融和していき

在韓米軍撤退議論とかが出てきて

なおかつ、米朝国交正常化に向かっていく、

そういう流れを扱っていましたが

基本的にそうなっているわけですね。

んでこれはやはり上の

「アメリカとイギリスの諜報から見る裏の近代史」

を勉強してわかってくることでもあるんですが

今日はその辺を書きたいと思います。

たぶん小学校で学んだ歴史とかの事実とはずいぶん違うんですが

それを元に分析すると

大きな流れをあなたも事前に捉えやすくなる

ってことです。

それでやはり無視できないのがイギリスという国なんです。

~~~~~

ちなみに今号を読むことで

「軍産複合体とは何か」までわかってきます。

これもう 完全にタブーでマスコミでは一切出てこないですが

逆にここタブーにするからマスコミの言ってる事といつも

正反対の政治事象になってしまうってことですね。

「マスコミが書いていることの逆に現実はある」

っていうことに多くの方は気づくだろうけど

例えばアメリカ大統領選挙でもヒラリー勝利確実と

日本のメディアは一斉にやってたけど

結果はトランプだったわけで

結局この 軍産複合体とは何か？イギリス諜報とは何か？

が理解できないと見えなくなってるのが

今の世界である、と思います。

それです、イギリスってのは19世紀から20世紀までは

大英帝国で覇権国だったわけですが

その支配力はイギリスが王室とユダヤ資本家（ロス茶とか）

との連合体だったってのが根本なんですね。

中世時代なんかはイスラム帝国がすごい栄えていたわけですが

そこで当時ユダヤ資本家たちってのは

地中海とかキリスト教世界、あとはイスラム教世界の両方に

幅広い商業ネットワークを持っていたんですね。

いわゆる

「自営業ネットワーク」ですね。

この自営業ネットワークってのは日本でもそうだけど

儲かる情報とか色々やり取りされてるものですが

実はもう中世時代なんかはまさにこの

自営業ネットワークが諜報網として機能していた

んですよ。

ちなみに「諜報網の発端は 自営業ネットワークだ」

と聞いて自営業の人は「なるほど」って分かると思います。

私のメルマガも別に私は諜報に所属していないけど

自営業の友人から聞いたことを色々

名前は当然伏せて書いてますが

まあ結構ヤバイ情報がメルマガにちよくちよくありますが

それもやはり自営業ネットワークってのは諜報の性質がある

っていうところに起因しますよね。

それで「どうも自営業の商業ネットワークは

諜報として機能するぞ」と気づいたのが

これ当時のイギリスの王族だったんです。

そして彼らイギリス王族はこの自営業たちの商業ネットワークに

入ってるユダヤ資本家を厚遇して連立して

それで世界的に唯一無二の諜報力と資金運用力を

手にしたんですね。

それで工業や航路や鉄道や軍備の急拡大を可能にしたわけです。

だからそこで起こったのが18世紀後半の

産業革命なんです。

ただ今の小学校の授業で子供が

「産業革命というのはイギリス王族が

ユダヤ資本家たちの作る商業ネットワークを

諜報化してそれで起こしたものだ」

なんて言ったら罰点つけられるでしょうが

本当はその辺が真実なんでしょう。

それでここで産業革命ってのを彼らユダヤ=イギリスの

諜報網がやりだしたのですが

ここで人類初の「大英帝国」が立ち上がるわけですね。

18世紀後半のことです。

それでユダヤ=イギリスともうイコールで結んでしまいましたが

ほぼイコールと言ってよい関係でしたが

こちらの諜報網が大英帝国の拡大のために

地中海から全世界に拡大したわけです。

ちなみにやはりイギリスってのが一番すごい国だったわけですが

イギリスは世界支配を安上がりにしたかった。

世界を支配するのにも効率があって

そこで「高くつく支配ではなく安価な支配」のほうが

よいわけですね。

それでここでイギリスが大変頭がよいんだけども、

フランスとかドイツとかイタリアとかロシアなどの

欧州諸国にも産業革命や帝国化を許したんです。

だからここでイギリスは「自分だけ産業革命」とはしなかった

んですね。

ちゃんと他の国にも産業革命だったり帝国化を許した。

ただここでイギリスはそれらの大国＝いわゆる列強国にも

諜報送り込んでますからね、

ここで列強国が談合して世界を支配する構図を作ったんです。

よく「国際協調主義」とか表向き綺麗に言ったりするけど

その原型はイギリスなんです。

ちなみに私のメルマガでは「クレイゴトの悪」をよく

書いてますが

このクレイゴト使って人類支配してきたのが

イギリスなんですよ。

私のメルマガは2010年から「軍産複合体の危険性」

をずっと書いていて

これは昔からの読者なら知ってるでしょうが

実はこのメルマガは「軍産複合体の危険性を多くの人に知ってもらおう」

っていう意味もあってスタートしてるんですね。

それは洗脳とか、日本のロボット養成のための教育体制とか

日本人がなぜ生き辛く感じてるか？とか

全部その辺につながってるんです。

それでイギリスなんかはキレイゴトを使って

大衆支配を今まで行っていたんだけど

そこで「国際協調主義」なんていうのも なんとなく

「協調」という言葉が入ってるからキレイに聞こえるけど

それはある種の偽リベラルのようなものであって

単純に世界支配に最も必要な地域をイギリスが取って

そして残りをフランスなどの他の列強国が支配して

覇権運営を安上がりにするってのがまずあったんです。

それでイギリスの諜報力が世界一でありましたから

そこで卓越したすごい諜報力で

他の列強を監視するのだけど

そこでイギリスにとって不利な動きを予防することで

イギリスの世界支配を維持するっていうのが

この「国際協調主義」だったんですね。

ここで列強国が談合することで

新しい強い大国が現れてきたら、

ここで協力して対抗できたんです。

「新しく強い人が出てきたらみんなで寄ってたかっつぶす」

ってのがこれ日本でもあると思うんだけど

大きくはこの体制って実のところ

国際協調主義ってのが世界の大枠であって

それが私たち民衆のコミュニケーションにも影響してるだけ

なんですね。

(マクロの大きな構造が小さなミクロの

私たちの普段生活してる組織構造まで

影響を与える)

それでここで 疑問がわきませんか？

「なんでイギリスって産業革命でお金はあつたはずなのに

覇権運営を安上がりにしたかったのか？」

と。

実はこれはイギリスの上層部を構成していたのが

1 王侯貴族

と

2 ユダヤ資本家であつただけど

この1と2で世界の運営方針が全然違つたんです。

1 王侯貴族

はまさに貴族であるから

そこでイギリスの国家としての永遠のような

恒久的な繁栄を求めたわけですね。

だから いわゆる「帝国主義」だったんです。

「自分が一番でありたい主義」みたいな感じですよ。

世界には帝国が1国あればよい、そして

その1国が世界を支配すればよい

みたいな思想ですよ。

一方ユダヤ資本家は違うんです。

そう、実は私ゆうのメルマガを見ている方なんかは

おそらくこの思想が多いはずなんですけど

ユダヤ資本家は

「金儲けを肯定して世界経済の恒久的な発展を求めた」

んですね。

またそこでは思想的には国家にあまりこだわりがない、

根無し草の国際資本主義みたいな感じですよ。

ちなみに少し脱線しちゃうけど

私たち日本人は自分を「日本」人だと思っ

それをアイデンティティ化してるんですけど

これも日本人ってのは本当は厳密に言えば

明治前あたりには存在していなくて

その前の時代は自分のアイデンティティとして

「〇〇村の花子さん」とか「〇〇藩の太郎さん」

みたいなアイデンティティなわけですよ。

花子と太郎という名前が当時あったかは私も知りませんが

いずれにしても私たち日本人が自分を日本人と認識したのは

結構歴史はそこまで長くないんですね。

それで ユダヤの国際資本主義の人らはそういう
考え方も結構します。

だから EU なんかがそうですよね。

EUだと例えば フランスからドライブして

ノルウェーに行けたりする。

車でドライブしてるうちにドイツに

入っていたりするわけですが

それは日本でいう「県」の感覚です。

だから EU ってのもやはり

国際資本主義の注入されたある種の人間の

思想なんです。

それでイギリスの資本の側ってのは

王侯貴族とは違って

世界中の植民地を独立させようとした

んですね。

経済発展に必要な国民改革だったり

産業革命を世界に拡大しようとしたわけです。

しかし帝国覇権の側はそれを嫌がったんですね。

だって植民地を独立させると世界各国に

新興諸国が出現して イギリスの覇権が

いずれ脅かされてしまう、と心配したわけですね。

ただそれでも結局は資本の側のほうが強いですから

ここで帝国覇権側ってのは妥協して折れて、

それで世界を欧米列強で分割して

植民地化する 支配の戦略をとることにしたんです。

ちなみにこれこそが

「分断して統治せよ」であって

それこそアフリカとか中東や東南アジアや

中南米に無数の国々が作られて

それらが独立しても国境紛争や宗教紛争や

民族紛争などで疲弊するように

「分断して対立する仕掛け」

が独立時に仕込まれたんです。

例えば日韓の竹島問題とかあるけど

それらとか分かりやすいですね。

マレーシアでも、マレー系と中華系とインド系の

3民族の対立が扇動された時代もあったわけで。

ちなみに今なんかはマレーシアはそういう

民族間の分断に気づいて「分断されない！」って

なってるんですが

それが 極めてポップな多くのマレーシアの愛国歌に

反映されだしてます。

これは興味あったら聞いてみてください。

彼らが歌ってる

Undivided ってのは分断されないって言う意味です。

PDF

(動画音楽) 【「マレーシアの愛国歌」はめっちゃ明るくてポップ! ?】

http://fxgod.net/pdf/malay_patriotic.pdf

まあそれでとりあえず 帝国主義側ってのは

こうやって各国を「分断して統治する」ってことで

とりあえず資本側が望んでいた独立を許してしまったわけですね。

だから大きな大きな流れでは資本側が

この数百年は 大きなトレンドでは優位だったと

言えるでしょう。

だから最近ではトランプ大統領なんかが力を持ってきていて

帝国主義側のエスタブに勝ちだしてますが

これは大きな数百年のトレンドに再度小さな数年単位の政治の

流れも乗り出したという見方もできますね。

それでイギリスの世界支配ってのは2度の世界大戦があって

そこで崩れてすべての植民地が独立することになりました。

だから本当は2度の世界大戦ってのは

資本側ってのが

イギリスの帝国覇権を無力化させて潰すために

引き起こしたっていう見方もあるわけですが

これ以上に歴史を説明できる説明は今のところ出ていないですね。

それでここで 当時は

列強内の新興国であったのが

ドイツや日本であったのですが

そこでイギリスに立ち向かうように仕向けたのですが

そこで列強国を共食いさせてイギリス覇権を潰そうとする

動きがあったわけです。

そこで当時同じく 新興国だったのが

アメリカでしたが当時アメリカってのは

ずばり「反イギリス国家」でしたから

このアメリカが事務局となって

「覇権の機関化する」シナリオだったはずなんです。

ちなみに覇権の機関化ってのは通常は

国家が覇権を持っていたけどそうじゃなくて、

国際連盟とか国際連合を作ってそこに覇権を譲渡して

移してしまう思想です。

日本だと私も以前お会いしてるのですが

小沢一郎さんがこの思想を時々言ってますが

それですね。

だから日本の政治家ってのも本当は
大きくはこういった 帝国覇権側 VS 資本側の
中で動いてるんです。

それでじゃあ「アメリカって何なのよ」ですが
アメリカってのは

当時イギリスが18世紀末に産業革命に入って
世界帝国になる道が開けてきたんだけど

そこで 資本の側が北米の入植植民地ってのを

イギリスから独立させて作ったのが

「アメリカ」なんですね。本当は。

ただこれは歴史の教科書の表では書かれていませんけど

本当はどうもそうなんです。

だからアメリカってのは資本の側が作った

反イギリス国なんです。

それでアメリカの「自由」ってのは何かっていうと

すなわち「イギリスからの自由」を当時は

現実問題としては意味していたんだけど

見事にこれは骨抜きされたんですね。

それで 「アメリカとイギリスが世界を自由化していくこと」

にこの「自由」は刷りかえられたっていうのが

なんとも悲しい歴史です。

まあそれくらい帝国主義派も強かった。

それでアメリカは資本の側が作った反イギリス諜報の国だったけど

ここでロックフェラーなんかも実際は資本の側でしたが

ここで資本の側は2度の大戦にて

ドイツとイギリスを戦争させて

そこでイギリスを窮地に陥れて

イギリスにそこで味方として参戦しまして

そこで参戦条件として 帝国覇権にこだわるイギリスに

「覇権の機関化」を認めさせたんですね。

だからそこで国際連盟と国際連合を作ったのですが

そこで資本側が作った国際連盟は第1次世界大戦の後には

イギリスの帝国側の外交によって 機能不全に、

そして国際連合も第2次世界大戦後には

イギリスの巧妙な外交によって冷戦を起こされて

アメリカイギリス VS 中国ソ連

の国際連合内の対立が構築されて

機能不全に陥ったわけです。

だからもうこの数百年間

帝国覇権側 VS 資本側の大きな戦いってのが

近代史の本質だったわけですよ。

これが最近ようやくしっかり事実検証なんかで

一部の在野の分析人によって明らかにされだしている。

ただそれを 帝国覇権側のマスコミたちは言うことなんて

出来ませんから、

そこでマスコミたちは

「あの人たちは頭おかしい陰謀論者です」とでも

言うんですけど

なぜか その人たちのほうが圧倒的に

政治経済部分の分析では的中させてしまっているの

さすがにマスコミたちも困ってるってのが

2019年の状況でありました。

それですね、今まではやはり帝国主義側勢力も

すごい強くて、

資本側のほうが優勢であったけどそれでも

勝負としては拮抗していたんです。



20世紀から見え始めた

世界の人々が交易する時代。



ただやはり大きくは20世紀のはじめくらいに
世界がイギリスなどの列強の覇権に入りまして、
そんで飛行機とか電車で世界のほとんどの地域に
私たち人類はいけるように
なったんですね。

例えばですがまさに私ゆうは今マレーシアの
スターバックスでこの記事書いてるんですが

それはあなたに今日中にでもメッセージがこうやって
届いてしまうわけです。5000キロ以上離れてるのに。

こうやって世界全体がある種の1つの市場になる

グローバリゼーションというよりは

インターナショナルリゼーションともいえるかもしれませんが

もう事実上20世紀初頭には

「これから世界全体で交易をスムーズにすることが

可能になるぞ」

つてのが見えてきたんです。

だから「世界経済全体の成長」という視点からすると

世界を分割支配したがる大英帝国はこれ

ユダヤの資本主義勢力からしたらちょっと邪魔になってきた

ってのはあるんでしょう。

ちなみにあなたも金儲けを一定程度肯定してるだろうけど

その金儲けを唯一肯定してる宗教は？

そうユダヤ教なんだけども。

だから金儲けしたいって言う人は自分で気づいていないけど

ユダヤ教に思想はそっくりなんだけど

ここで資本側もまた

「世界全体がちゃんと発展してくれたほうが

金儲けできるしそっちのほうが良い。

だからせっかくインフラも作ってきたのに、

そこで 公共破壊事業とか言って

戦争なんてしてはならない」

っていう思想ですよ、現状。

だから今のマレーシアなんかにいると分かるんだけど

「分断されないで結合しよう」とみんな言ってるけども

そしてだからこそマレーシアは平和なんです

これは大きくは資本側の思想でもあるわけですね。

私自身もそれに思想は近いのだと思います。

それで2度の世界大戦ってのは国際資本家たちが

覇権国だったイギリスを潰すために起こしたものであったわけですが

ただそこでイギリスは戦後も覇権を黒幕的に維持してきましたから

そういう意味では 資本家 VS イギリスというのが

本質としてあった 2度の大戦においては

イギリスの勝利 = 辛勝だったんですね。

資本の側は完全に「勝ちきれなかった。」



アメリカ諜報の悲劇



それで戦前のアメリカってのは諜報機関を持っていなかったんだけど

イギリスは覇権国になるには諜報機関が必要だったことで

それを作ってやるとアメリカに持ちかけたんです。

もうこの時点でアメリカは攻略されてしまっ

ここで アメリカの悲劇にもつながるんだけど

ここでイギリスの肝いりでアメリカに CIA が作られたんですよ。

だから CIA っていうのはイギリス作なんです。

だからアメリカの諜報には創設時からイギリスのスパイが

無数に入り込んで

彼らが活躍したのがアメリカ内の外交界 = 国務省

であったり

あとは国防総省、マスコミ、学术界、政界などで

ありました。

だから実はこれ、アメリカ人で政治に詳しい人は知ってるけど

もうアメリカっていうのは諜報部分でイギリスにまんまと

主導権を握られてしまっって 反イギリス思想を骨抜きにされてしまっって

そこで「対英従属」の国にアメリカは堕ちてしまった

わけですね。

そこに怒ってるのが実はアメリカ国内のリバータリアンなんだけども。

このリバータリアンたちが「アメリカに覇権などいらぬ」

と言ってるのは

そしてトランプがその通りに動いてるのは

本質的には 反イギリス諜報の考え方なんです。

「アメリカに覇権を与えて世界を隠然と支配する」

というイギリス諜報のやり方に反発してるわけですね。

それで 本当は資本側としては世界をどんどん発展させたいと

思っていたけど

ここで帝国側がやはりかなり暗躍したのがこの数十年ですが

そこでイギリスのチャーチルが1946年には

訪米して、

そこでソ連敵視の「鉄のカーテン宣言」を発した。

そこでアメリカ国内のイギリスのスパイたちが

ここでソ連敵視を扇動したんですが

そこでアメリカは冷戦構造に飲み込まれていきまして

そこでイギリス諜報のMI 6なんかが実際はアメリカを

動かしたわけですね。

それでこのイギリスのスパイたちのネットワークが

実は

「軍産複合体」なんですね。

これが本質。

これは私がいた早稲田の政治学科のテーマでもあったんだけど

ネオコンや軍産複合体ってのは大学で教えられていたんだけど

「じゃあネオコンと軍産複合体は何が違うのか」

ってのは当時大学時代に私は分かりませんでした。

だから大学卒業して、私の場合は思想的に

大手新聞社とかで働くのは無理とわかっていましたから

就職活動しないでフリーターして独学で勉強を続けたけど

ようやく30代になって、この辺がわかってきたんですね。

まあ副島先生とあとは田中宇先生の言論と出会って

色々検証してみて「ああ、これが真実ではないか」と

たどり着いたというか。

ちなみに蛇足だけど 最近だとボルトンに代表される

ネオコンってのは一応好戦的に見えるから

軍産複合体との違いは分からないけど

どうもネオコンってのは資本の側なんです。

彼らネオコンは「過激に装って、作戦を破壊する役割の平和主義者」

であるんです。

戦争をしたいならば戦争したいと言わないで

いつか準備が整ったら奇襲が基本ですが

ネオコンの場合は「戦争するぞ〜」って言うんですが

本当は平和主義者なんですね。

だから本当は米朝首脳会談が実現されることを

私は既に2016年には情報を得て書いていたけど

あれは実はボルトンが北朝鮮の外務省たちと打ち合わせしていたんです。

その後ボルトンがアメリカ国内では 鷹派の

過激派を装ったけど

実は彼は平和主義者なんですね。

表と裏はずいぶん違う。

それで軍産複合体ってのは実は本当は

イギリスのスパイたちのネットワークのことなんです。

それで資本側は第2次大戦でアメリカに

国際連合という世界政府の覇権機関の実質的な

事務局をやるはずだったんですが

イギリスから冷戦を起こされてしまって

国連安保理ってのは米ソ対立の場と化して

無力になってしまったんです。

国連安保理の常任理事国は

アメリカ合衆国、イギリス、フランス、

ロシア連邦、中華人民共和国

でありましたが

この5カ国で覇権運営するはずだったんですね、

最初は。少なくとも 資本側はそう考えていた。

が、そこでイギリス帝国覇権側ってのが

ご存知冷戦構造を作ってしまった

この国連安保理で

「
アメリカ合衆国、イギリス、フランス、

VS

ロシア連邦、中華人民共和国

」

の対立のVS構造になってしまったわけです。

だから国連安保理を無力化したのがイギリス諜報のヤバいところ

ともいえるでしょう。

それで資本側からすると

2度の大戦ではイギリスの覇権を潰すはずだったのですが

これが逆にアメリカをイギリスの傀儡にする結果となってしまった

わけですね。

以前はアメリカってのは反イギリス的な思想の国だったのに

ここでもアメリカのプロパガンダ=情報操作=マスコミなど

をイギリス諜報に握られてしまって、

それはCNN だったりしますが、結局そこで

反イギリス的なアメリカが

アメリカとイギリスの同盟を最重視する国に変質

させられてしまったんですね。

そういう意味ではイギリス諜報ってやはり

世界一なんですね。

CIAよりMI 6のほうが諜報では上でしょう。

それで カナダとかオーストラリアとかニュージーランドってのは

どういう国なのかっていうと

これははっきり言うとイギリス系の国であって

ここでアングロサクソンの諜報同盟を作って

それが 5つの目 Five eyes とか言われますが

戦後この同盟がずっと維持されましたが

これはアメリカの諜報や外交の活動で

裏切りがないように

イギリスが監視して牛耳るためのものだったんですね。

それでこれがすごいところで

例えば日本人の多くはイギリスの力がそこまで

大きいものだとは知らなかったりする。

逆に私はマレーに住んでるからそれに気づけたけど

(マレーシアはイギリス植民地でしたので歴史を調べる中で
自分でイギリス関係の話とか見ると嫌でも気づく)

なかなか普通に生活していると気づかないんですね。

外交専門家を自称するよく雑誌や新聞出てくるような人は

「イギリスにそんな力があるわけない！」って

言うんだけど

これは完全に間違ってるんですね。

一度イギリスの諜報をアメリカや同盟諸国の上層部に

ねじ込むと、

それがあとは国力に関係なくアメリカの機密情報が

イギリスに入り続けて

イギリスがアメリカと同盟諸国を操る構図が

維持されるんです。

ちなみにまさにこの辺を研究しだしてるのが

アメリカの在野分析人たちでもあって

トランプの背後にいる支持者のリバータリアンたちは

この辺に気づいてるんだけど

やはりイギリス諜報が「すごかった」と言えるのが
「この200年近く全くその尻尾を出さなかったこと」

だと言えますね。

いや、出ていたのかもしれませんが、それでも

決定的な証拠は出ていなかった。

それでここで知っておきたいのは

冷戦開始後なのですが時間が経過して、

アメリカ上層部でも本来の資本側の勢力が

諜報界で力を盛り返してきたんです。

それでニクソンとレーガンという2つの共和党政権が
イギリス側を押しつけて冷戦を強引に終わらせたわけです。

それでニクソンはイギリス側にウォーターゲート事件で

攻撃されて失脚しましたが

その後はトランプ大統領も尊敬するレーガン大統領や

あとは子ブッシュなんかが出てきた。

子ブッシュなんかはかなりの悪者とされてるけど

そして死んだデービッド RF なんかもそういわれていたけど

どうも、資本側の勢力であったんだってことが

ようやく最近わかってきてますね。

だからトランプがジョージブッシュを

2016年の選挙戦で批判していたのは

あれは仲間内で了解済みだったってのもあるのかもしれない。

それでなんとか 資本側の勢力が

主に歴代の共和党政権が

イギリス勢力への

攻撃を加えていった。

一方民主党政権側ってのは

クリントンなどのイギリス諜報側か

もしくはオバマやカーターのようなどっちつかずの

政権で構成されたんです。

ただこれは大変大きな事件だけど

民主党のあのヒラリーの

「スティーラー報告書事件」

ってのがこれがすごい事件だったんですね。

ここでなんとヒラリークリントン候補の時の

民主党本部が イギリス諜報の MI6 に資金を出して

トランプとロシアの関係を濡れ衣敵にでっちあげる報告書を作らせて

そしてアメリカ民主党とイギリス諜報と軍産が

思いっきり癒着しているっていう証拠が出てきちゃったんです。

どうもヒラリークリントンの無能さってのがありますが

ここを分析しきれなかった MI 6 の甘さもあるでしょうが

あのスティー爾報告書ってのはようやく MI 6 なるの

イギリス諜報が出した尻尾ですが

まあすごい事件でした。

「ああ、やっぱりアメリカはイギリスの属国だったのか」

と多くのアメリカの政治学者たちは震えたのが

おそらく あのスティー爾報告書事件です。

それでニクソンとレーガンなんかは

資本側として冷戦を終わらせたんですが

それだけでは軍産複合体の覇権は壊れなかったんですね。

軍産複合体（アメリカ国内に救うイギリススパイ）

つてのは

アメリカ国内を牛耳ってきたのと同じ手法で

対米従属の欧州や日本やオーストラリアやカナダなどなど

牛耳ってきたわけで

それが「G7」の形となってます。

だからここで重要なことがあって

アメリカはイギリスに牛耳られているわけですから

日本なんかのアメリカの同盟諸国てのは本当は

対米従属というよりは「対英従属」なんですね。

これはアメリカと同盟諸国の全ての外交官がある種の

イギリスのスパイのようなものですが

これは実際に日本の外務省の高官たちの

経歴見ると面白いですよ。

イギリス留学しまくってるんで。

日本のパスポートで最も長くビザなし滞在できちゃう国は

実はイギリスなんだけど、

そして日本はイギリスと同じ議院内閣制であって

さらに明治維新をした坂本竜馬はイギリスのグラバー商会の

単なるスパイだったろうし

あとはイギリス植民地の国の道路は左側通行なんです

日本の特徴がことごとくイギリスに支配された植民地に

似てしまってるのは

これそういう歴史があるからだ、って

いよいよ2020年代に本格的にばれてくると私は見てますね。



9 1 1の本当の意味



それでアメリカの資本の側なんかは

この数十年実は結構健闘していて

特に顕著だったのが9 1 1以降です。

まずせつかく作った冷戦構造を資本側に破壊されたのが

イギリス諜報、帝国覇権側でありましたが

ここで彼らが新しく作ったのが

「テロ戦争」なんですね。

このテロ戦争の構造を作ったのが

9 1 1 以前にイギリスに近かった

民主党のクリントン政権時代でした。

9 1 1 以前にはアメリカとイギリスが協調する形で

テロ戦争が進んでいたのですが

アメリカの政権が子ブッシュに変わって9 1 1 が

起きたわけですね。

そしてその後・・・それは「イギリスを無視して冷遇」

する形に変質したわけです。

まあだからそこに資本側の

デービッド RF もそこに関わったでしょうが

ここでテロ戦争を仕切る主勢力が

イギリス側の人間から反イギリス側の人間に

変わってるんですね。

だから9 1 1の本質ってのは本当は

資本側（アメリカ側）によるイギリス外し

だったと言えるのかもしれませんが。

実際に9 1 1以降にアメリカ政府内で

イギリスの傀儡であった国務省の地位はかなり下がりました

一方イギリス無視の国防総省の力がかなり上昇したんですね。

それで資本の側ってのはある種「わざと過激にやって失敗させる」

というのをやるんですが

例えばイラクに大量破壊兵器があるとかいって

イラク戦争や中東民主化を仕掛けるんだけど

これは「失敗するように仕向けられていた」わけですね。

偶然失敗したんじゃないくて 元からあれは失敗するように

仕向けられていた。

それが大人の世界ですよ。

まあそれでアメリカの国際信用はかなり低下しましたが

そこでアメリカ帝国覇権は自滅の流れになっていきます。

それでこれは第2次大戦後に、

イギリスがアメリカに移譲させて

そして乗っ取った「アメリカ帝国覇権」があるわけですが

そのアメリカ帝国覇権は イギリスが後ろで牛耳る覇権でもありますが

それをシステムごと破壊する戦略ってのを

資本側は仕掛けたんでしょう。

これが実際に9 1 1以降に見られるわけです。

アメリカの対テロ戦争ではイギリスがはずされて

なおかつ、大量破壊兵器も見つからないでアメリカ帝国覇権は

相当信用を失った。

だから今の2019年、そして2020年ってのは

この資本側が優位な大きなダイナミズム、

流れの中にあるわけですね。

それで、2016年前後の話だけど

ここで資本側の心配する点として

「もしアメリカがイギリスがバックにいる

帝国覇権を放棄しても

イギリスが主導する アメリカとイギリスの同盟体制が

世界の主たる政治体制として残っていると

アメリカ国内の政権が共和党から民主党などに

替わったときに

再びアメリカが覇権国に戻ってしまう。」

というのがあるわけですね。

だから

こうなったら困るから、アメリカが放棄した覇権を

イギリスが敵視してきた中国やロシアに拾わせて、

イギリスがもう元に戻れないように覇権を取り上げる

ということを資本側は画策したでしょう。

だから今は資本側、キッシンジャーなんかも

どう見ても中国ロシア側を本音では応援してる感じはしますが

これから資本側が優勢ですから

中国やロシアが覇権を拡大していくわけですね。

それでこのような大きな歴史の流れってのがあるんですが

そこでアメリカのトランプ登場と

イギリスで起きてる EU 離脱決定、

そして今回のボリスジョンソンの保守党の大勝利

つてのは

その流れを踏まえていたら分かるように

「イギリス諜報、イギリスの帝国覇権サイド、

軍産複合体」の力を劇的に低下させる動きなんです。

どうもイギリスの黒幕的な影響力、覇権力がこれから

どんどん低下していく。

だからトランプとボリスジョンソンの背後にいるのは

やっぱりキッシンジャーなりの資本側の人間でしょうが

もう彼らが最近では強くて、このイギリス側を無力化していく動き

ってのが見て取れます。

それでボリスジョンソンの保守党の存在意義って

多くの方は上記の歴史事態を勉強していないから

分からないようにさせられてるんですね。



EUの本質中の本質



それで EU っていうのは資本側のレーガンが冷戦終結時に

欧州に創設させたものですが

これは国家統合によって欧州を強化して

アメリカやロシアや中国と並ぶ世界の「極のひとつ」

とするための

「反イギリスの多極化策」なんですよ。

だから本当は昔のアメリカがそうであったように

EUっていう ヨーロッパの国々をまとめてしまう思想は

「反イギリス思想」なんです。

それで私たち日本人でも地図を見て少し謎に思うのが

「なんでイギリスって EU の中にいたの？」って話ですよ。

だってそもそもヨーロッパといってもイギリスは島国ですし

欧州大陸とは少し離れてるわけです。

これは現代も生きる大英帝国のイギリスとしてはですね、

やはり EU を弱いままにしたいわけですし

そこでイギリスが覇権持たせて背後で操るアメリカに

対米従属を EU にも続けさせたいわけですね。

だからイギリスが実際やってきたことってのは

「EU に加盟しつつ、内側から EU 壊し続けていた」

んです。

だから EU なんかは統合が遅れさせられていたんだけど

ここでもしイギリスが完全に離脱していくと

ドイツもフランスも抑制から解放されまして

EU を徹底強化できるし

対米自立させられるんですね！

それが実はボリスジョンソン勝利の重要な意味でもあります。

それで今までは国民意識を操作するプロパガンダが

上手だったのがイギリス諜報であったけど

国民投票でももうこの彼らの諜報力や

プロパガンダ力を生かすことが

出来なくなってきた感じですよ。

今回も 反エスタブのボリスジョンソンが圧勝した。

実際は資本側のエージェントがイギリス諜報の中に

入って自滅させたかく乱した政治がおそらくあるでしょうが

とりあえず 資本側有利の流れが作られてるのは間違いないわけですね。

それがボリスジョンソンの保守党勝利の意味。

それでボリスジョンソンってのは以前から

「極度の」EU 離脱信奉者でして

特に「協定がしっかりある離脱じゃなくて」

「イギリスの諜報たちを完全に破壊できる

無協定の合意なき離脱」

を本音としては望んでるんです。

それで今回の保守党勝利の本当の意味ってのは

上に長々と書いたんだけど

イギリスがジョンソン政権のもとで

EU から「無協定離脱で合意全然なしの離脱」

が出来るとですね、

そうすると「イギリスの国際政治力が

超低下した状態」になるんです。

これがいよいよ来年あたりに見られそうな、

期待できそうな動き。

「つばをごっくんと飲む動き」です。

そしてまだ市場は思想分析までしていないので

これを織り込んでません。

おそらく1月あたりに楽観が形成されたら

そこで「ジョンソンの本性」が露（あらわ）

になる可能性があります。

それでジョンソンとしてはトランプは

同じ資本側の勢力で味方ではありますけど

ここでイギリスが EU から無協定離脱したら

その政治的大混乱がありまして

そこでトランプは最大の妨害勢力であるイギリス系の

帝国覇権側にまったく 邪魔されないで

2020年の大統領選挙を悠々と
行えるということになります。

例えば QE 4 でジャブジャブマネー拡大なんかも

簡単にできるようになってくる。

以前にジョンソンが首相になる前に

イギリスの諜報 MI 6 の長官がジョンソン首相就任を批判する

表明をしましたが

まあそれはジョンソンがトランプと同じ

資本側（多極側＝帝国覇権放棄側）だからなんですね。

それで今回のイギリス保守党が勝利して

ジョンソンが勝ったんだけど

となるともう来年のトランプ選挙はよほどのことなければ

再選となる流れですし

だからもうこれから5年近く、

しばらくは「世界の多極化」の動きは進むってことですね。

そしてトランプの2期目の2024年に誰が勝つかは

分かりませんが

そこで2024年にイギリス系の、すなわち

アメリカの帝国覇権を取り戻すみたいな人間が

トップに立つ可能性もこれまた低いです。

アメリカ2大政党制において

共和党は 反エスタブのトランプたちが強いし

民主党はこれまたエスタブが弱っていて

それこそ反エスタブのサンダースやらウォーレンが強いからです。

だからこれから 大きくは2大政党制なんかも

少し見直されてくるはずですよ。

2大政党制ってのは元々

非民主的なイギリスの諜報が権力維持するための

仕掛けだったわけです。

それでこれからアメリカは世界から米軍を撤退させていくし

戦争しない国になっていきまして

今まで敵であったロシアや中国もアメリカの敵では

なくなってきました。

それで在日、在韓米軍も大体

数年内に本格的な撤退議論になってきますね。

それでイギリス系の外交官の地位がこれから下がっていきまして

アメリカの国務省や日本の外務省が

日本の中核から外れた感じになっていきます。

トランプも安倍も自国外交官を冷遇しますが

これから外交官・冬の時代です。

それでマスコミなんかはもう商売成り立たなくなってきた

誰もこれマスコミを妄信してくれませんか

「フェイクニュースはマスコミ報道のこと」とみな

気づきだしてしまして

その覚醒はもっと進む。

あとはイギリスがアメリカに作ったのが

アメリカの債券市場だけど

これがもういよいよ近年中に崩壊する感じですよ。

ちなみに現状は資本側がまた有利になっておりますが

この資本側と帝国側の暗闘ってのは

250年間続いてますから、

まだ逆流も起こりえるってのが田中宇先生の見かたでは

ありますね。

ただいずれにしても この大きな流れの中で

資本側優位の流れはかなりの長期続きそうなので

大きな時代の流れを見て私たちは生き方を考えたいものです。

では！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【FX新・無料案件！】20億円の“怪物”が暴露！

完全無裁量で1ヶ月915万円稼ぐ手法とは？

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

【FX新案件】（無料）

**「完全無裁量なのに、
1ヶ月で915万円。」**

**伝説の機関投資家が明かす
「相場の絶対領域」。**

**あらゆる価格が
“そこ”に引き寄せられる、**

**奇跡のゾーンの存在を
あなたをご存知ですか？**

150pips、200pipsを

一撃で奪ってしまうことも
十分に可能ですよ。」

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/42/>

【2日間の期間限定公開です！】

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆